

令和4年度 第2回児童による学校評価 まとめと見解

八王子市立小宮小学校

校長 安藤 臣一

孟春の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。日頃より本校の教育活動に際しましてご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、今年度実施の「第2回児童による学校評価」についてその結果をまとめましたのでご報告いたします。なお、この結果は、次年度の本校の教育活動の改善に反映してまいります。

【1】実施時期 令和5年2月20日～3月17日

【2】回答率 児童数 (5年92名 6年105名) 回収数183名 回答率 92.8%

【3】各項目結果のまとめ

A…あてはまる B…だいたいあてはまる C…あまりあてはまらない D…あてはまらない E…わからない

(1回目との比較)

No.	評価項目	AB 評価率	CD 評価率	E 評価率
1	学校・学年・学級の目標や、重点テーマ目標「伝える！ つなげる！ ゴースマイル！」を知っている。	92% (-6)	5% (-4)	4% (+3)
2	学校は力を入れて行っている取り組み「多摩川の学習(4年)、畑での栽培活動(全学年)、昔遊び・読み聞かせ・昔の暮らし等」に取り組んでいる。	76% (-8)	22% (+14)	12% (+4)
3	自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動するように先生たちは指導している。	88% (-4)	6% (+3)	6% (-2)
4	学級は落ち着いて学習できる雰囲気である。	68% (-20)	16% (+15)	6% (-1)
5	先生たちは授業において、説明、板書、話し合い活動、視聴覚機器(ICT機器)の活用などの工夫に取り組んでいる。	79% (-8)	5% (+2)	16% (+6)
6	学校は、いじめに適切に対応し、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。(子供へのアンケート実施・話を聞き、相談にのってくれる等)	85% (-9)	18% (+16)	12% (+8)
7	学校は、生活指導(あいさつ・言葉づかい・学校のきまり等の指導)に取り組んでいる。	92% (-2)	3% (0)	5% (+2)
8	先生たちは、将来の進路や職業について指導している。	68% (-3)	20% (+3)	12% (0)
9	学校は、学習環境の整備や清掃活動に取り組んでいる。	91% (-2)	3% (0)	5% (+1)
10	避難訓練に真面目に取り組んでいる。	94% (-2)	3% (+1)	3% (+1)
11	運動に進んで取り組んでいる。	87% (-3)	9% (+3)	4% (0)
12	自分には良いところがあり、自分のことが好きである。	58% (-9)	25% (0)	17% (+9)

13	自分から進んであいさつしている。	82% (-7)	14% (+6)	4% (+1)
14	自分は学校のきまり「小宮スタンダード」を守り、当番や係活動をしている。	73% (-6)	6% (+2)	21% (+4)
15	自分は、友達をいじめることなく、大切にしている。	93% (-5)	3% (+3)	4% (+2)
16	家庭学習は、学年×10分している。	62% (-14)	32% (+17)	7% (-2)

【4】項目別評価についての見解

① 「目標」について（項目No.1）

「伝える つなげる ゴースマイル！」という重点テーマや学年等の目標の認知は、1回目同様、高い評価の結果となりました。これは「伝える」というコンセプトとして、「伝える全校朝会」「委員会連絡集会」「伝える行事」等のその具体的な教育活動として継続してきたことの成果だと考えられます。各学年やクラスでも目標を立て、具体的な取組を考え、実践してきました。この取組が児童全体に浸透してきたと受け止めます。次年度も同様の取組を進めていきます。

② 「授業」について（項目No.2, 3, 4, 5, 8）

1回目と比較して、全ての項目でAB評価率がマイナスになりました。特にNo.4の項目では20ポイントも下がっています。およそ5人に1人が学習の環境に不安定さを感じていることとなります。落ち着いた要因としては、児童間の関係や教師と児童の関係、学級の状態などいくつかの要素が考えられます。こうした要素を次年度に向けて検討し、児童が安心して学習できる環境づくりを更に進めてまいります。

③ 「生活」について（項目No.6, 7, 9, 10.）

生活に関する項目も、全体的にAB評価率が微減しているものの、肯定的な評価が85%以上ということから、今後とも今年度の方針を継続し、児童一人一人に寄り添いながら、問題があれば迅速に「3つのS」（スピード・スマイル・システム）で対応してまいります。ただし、いじめについてはCD評価率が18%と5人に1人が不安を感じていることから、現状を分析してその原因を考察し、次年度に反映させていきたいと考えています。

④ 「自分自身の振り返り」について（項目No.11～16）

この項目も全体的にマイナス傾向が顕著であることが確認されました。特にNo.12の自己肯定感についても4人に1人がCDの評価であること、またNo.16の家庭学習については、3人に1人がCDであることを重く受け止める必要があると考えています。今一度、児童の実態を分析し、次年度の指導の改善に活かしていきたいと考えています。